

国立国会図書館における研究開発（R&D）

—図書館及び図書館情報学に関する調査研究—

国立国会図書館 関西館
図書館協力課 調査情報係長
阿部 健太郎

1. はじめに

国立国会図書館では、研究開発業務に相当するものとして、関西館図書館協力課が図書館及び図書館情報学に関する調査研究を、電子情報部が、先進情報技術を応用した新しい図書館サービスを実現するために、標準化や次世代システムに関する調査研究を行っています。関西館図書館協力課の調査情報係では、図書館協力事業の一環として、図書館及び図書館情報学に関する情報収集、調査研究とその編集・提供に関する業務を行っています。

まずは図書館及び図書館情報学に関する情報の収集について説明いたします。

2. 図書館及び図書館情報学に関する情報の収集

当係では、毎日 RSS リーダや SNS などさまざまなインターネット上のツールを駆使して、図書館や図書館情報学に関する最新の情報を収集しています。これらをブログ記事などに編集して、2006 年に運用を開始した当館のポータルサイト「カレントアウェアネス・ポータル」などで提供しています。

ブログ記事「カレントアウェアネス-R」では、図書館や図書館情報学に関する、「重要だ」「目新しい」「おもしろい」といった情報を、毎日 6 件から 8 件程度簡潔に速報しています。米国の図書館ネコ「デューイ」や「ぬいぐるみのお泊まり会」に関する記事を掲載した時は、社会的な反響が大きかったです。ほぼ隔週で刊行するメールマガジン『カレントアウェアネス-E』は、ブログ記事の一部の背景などを解説した記事の他に、イベントの報告記事や、文献の内容を要約して紹介する記事を、1 号当たり 4 本から 6 本掲載しています。また、季刊誌の『カレントアウェアネス』は、特定のテーマに関する動向や研究文献をレビューする記事などを 1 号当たり 6 本程度掲載しています。

ブログ記事は当係の職員が執筆しますが、メールマガジンや季刊誌については、外部の有識者や大学院生、当館の職員などに執筆を依頼し、編集して発行しています。特に季刊誌については、外部の有識者や当館職員が出席する編集企画会議を通

じて記事の企画や執筆者の選定などを行うことにより、質の確保に努めています。

「カレントアウェアネス・ポータル」のコンテンツの件数やアクセス数はスライドのとおりです。年間アクセス数は 1,000 万件を超えています。ちなみに、中国に関するコンテンツは約 400 件掲載しています。この図書館や図書館情報学に関する広範囲をカバーした情報発信は、図書館界で高く評価され、重要な情報源として図書館員や研究者など幅広い読者を獲得しています。

3. 図書館及び図書館情報学に関する調査研究

このようなかたちで日々情報を収集し、ブログ記事などとして編集・提供しているのですが、もうひとつの大きな業務として、図書館及び図書館情報学に関する調査研究を実施しています。

図書館協力事業の一環として実施しているこの調査研究は、全国の公共図書館や大学図書館などの業務改善に資することが目的です。そのため、テーマについては、ブログ記事などの編集・提供を通じて把握した図書館界の関心や課題を考慮しつつ設定しています。また、調査研究の成果は報告会等を開催して、わかりやすく解説しています。このように、図書館の現場と図書館情報学の研究の橋渡しあるいは連携を促し、各種図書館が自館の図書館サービスなどを改善する際の参考としてもらうことを意図しています。

調査研究は年度単位で実施しており、関西館が開館した 2002 年以降、ほぼ毎年実施しています。テーマについては、近年は、高齢者サービス、情報行動、図書館経営、レファレンスサービス、東日本大震災と図書館、障害者サービスなどを取り上げました。調査手法は、テーマや目的に合わせてアンケート調査、ケーススタディ、インタビュー調査、オンライン調査、文献調査などを採用しています。たとえば、障害者サービスやレファレンスサービスに関する調査研究では、アンケートにより全国の図書館の実態を調査し、また高齢者サービスや図書館経営に関する調査研究では、ケーススタディにより先進的な事例又は特徴的な事例を調査しました。テーマ設定や調査手法については、どのようなテーマを取り上げるとよいか、あるテーマについて調査する場合何をどのような手法を用いて調査するのがよいか、などについて外部の有識者から意見を聴いて参考にすることがあります。テーマについては、類似のテーマを続けて取り上げることがないようバランスにも配慮しています。

調査は、設定したテーマや調査手法に基づき、民間の調査機関に委託しています。受託した調査機関は、そのテーマに詳しい研究者などからなる研究会を組織して、調査を実施します。

調査結果は報告書にまとめ、「図書館調査研究レポート」として刊行します。現在まで 16 タイトルを刊行しました。報告書は、海外の国立図書館、国内の公共図書館・大学図書館等に配布するほか、ブログ記事などと同様、「カレントアウェア

ネス・ポータル」から PDF 版などの電子媒体でも閲覧できるようにしています。また、当館による成果報告会の開催、紹介記事の執筆、学会の研究会などでの発表などを通じて調査研究の成果の普及に努めるとともに、各種図書館員にも理解しやすいようわかりやすく解説するように心がけています。昨年度の調査研究の成果は、先週開催された図書館業界の国内最大級のイベントである図書館総合展で報告しました。

4. おわりに

調査研究の成果は、調査結果から資料として作成した文献リストに至るまで、よく参照されています。当館はこれからも、全国の公共図書館や大学図書館等の関心や課題に沿った調査研究を実施し、その成果をわかりやすく還元することで、各種図書館等の業務改善、さらには日本の図書館界の発展に貢献できるよう努力していきます。

一方、国外へ目を転じると、日々の情報収集では、英語などで発信される国外の情報も積極的に収集し、「カレントアウェアネス・ポータル」で日本語の記事に編集して提供しています。英語による国外への情報発信に関しては、季刊誌の記事や調査研究の報告書について英文のタイトルやアブストラクトを作成したり、また「カレントアウェアネス・ポータル」に英語版のページを作成し、日本の図書館界の情報を積極的に国外へ発信したりしていますが、まだ十分とは言えません。情報収集能力や文章力の向上、図書館情報学への精通などの基本的なことに加えて語学力の向上など、職員の人材育成の面で課題もあります。国外の情報の収集や国外への情報発信により一層取り組んでいきたいと考えています。

中国の図書館についても、中国国家図書館や上海図書館のウェブサイトなどを拝見し、日々情報を収集しています。両国がそれぞれ、国内の図書館に関する情報を積極的に発信することを通じて、お互いの図書館界が今後一層発展することを願って、私の報告を終わります。ご清聴ありがとうございました。